二足歩行ロボットのイベントに出てみよう!
～ KHR-1 1st ANNIVERSARY 編～

イベントレポートを見ていると、すごい人たちがすごい技術で競っていて、とてもじゃないけど自分は参加できない……なんて思っている人はいないだろうか。人間、やってみないとわかりません。まずは飛び込んでみよう、という突発企画、スタート!

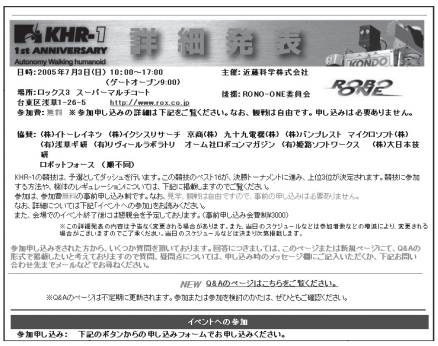
梓(あずさ) みきお

きっかけは～？ 思いつきっ！

こんにちは。梓みきおです。

二足歩行ロボットのイベントというと、すぐに思い浮かぶのは「ROBO-ONE」。だが、ROBO-ONE はごっついロボットがどかーんと闘っている(←雑なイメージ)世界なので、ワタクシのように私立文系の人間では、なかなか気軽に入っていけない気がします。

でも、やっぱり参加してるほうが楽しそうだよなぁ、と思った矢先、編集部に KHR-1 だけの大会「KHR-1 ファーストアニバーサリー(以下、アニバーサリー)」の案内が届きました。ふむふむ、コレなら KHR-1 しかいないし気楽に参加できそう。ちょうど編集部には KHR-1 が 1 機あるし。


KHR-1 1st ANNIVERSARY
Autonomy Walking humanoid
詳細発表
KONDO
日時:2005年7月3日(日) 10:00～17:00
(ゲートオープン9:00)
場所:ロックス3 スーパーマルチコート
台東区浅草1-26-5 http://www.rox.co.jp
参加費:無料 ※参加申し込みの詳細は下記をご覧ください。なお、観戦は自由です。申し込みは必要ありません。
主催:近藤科学株式会社
後援:RONO-ONE素員会
協賛:(株)イトーレイネツ (株)イクシスリサーチ 京商(株) 九十九電機(株) (株)パンプレスト マイクロソフト(株) (有)浅草千葉 (有)リヴィールラボラトリ オーム社ロボコンマガジン (有)姫路ソフトワークス (株)大日本技研
ロボットフォース (順不同)
KHR-1の競技は、予選としてダッシュを行います。この競技のベスト16が、決勝トーナメントに進み、上位3位が決定されます。競技に参加する方法や、競技のレギュレーションについては、下記に掲載しますのでご覧ください。
参加は、参加費無料の事前申し込み制です。なお、見学、観戦は自由ですので、事前の申し込みは必要ありません。
なお、詳細については下記イベントへの参加をお読みください。
また、会場でのイベント終了後には懇親会を予定しております。(事前申し込み会費制3000)
※この詳細発表の内容は予告なく変更される場合があります。また、当日のスケジュール化などは参加者数などの理由により、変更される場合がございますのでご了承ください。当日のスケジュールなどは決まり次第掲載します。
参加申し込みされた方から、いくつか質問を頂いております。回答につきましては、このページまたは新規ページにて、Q&Aの形式で掲載したいと考えておりますので質問、疑問点については、申し込み時のメッセージ欄にご記入いただくか、下記お問い合わせ先までメールなどでお寄せください。
NEW Q&Aのページはこちらをご覧ください。
※Q&Aのページは不定時に更新されます。参加または参加を検討の方は、ぜひともご確認ください。
イベントへの参加
参加申し込み: 下記のボタンからの申し込みフォームでお申し込みください。

ふと見回すと、編集部の新人・高橋さとみ嬢がいらっしゃる。oh！これはイイところに。

梓 「アナタハ、二足歩行ロボットニキョウミガアリマスカァ？」
高橋 「ありますよー。何か御用ですか？」
梓 「oh、デハ決マリデース。イベント出場～」
高橋 「え？」

いたいけな新人さんが何か言いかけたのを制し、あれよあれよとエントリーを決定。ついでに記事化も決定(もちろん編集長と相談済)。

よっしゃ。これであとは高橋嬢が右も左もわからなくなったタイミングで、颯爽(さっそう)と現れたワタクシが頼りがいのあるところを見せれば、今後尊敬を勝ち取れるに違いない！ 人間最初が肝心デース！

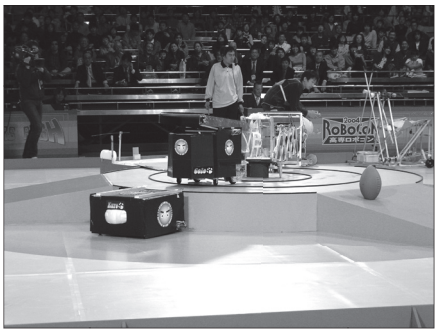
高橋 「二足歩行ロボットは経験ないんですよー」
梓 「……二足歩行ロボット“は”？」
高橋 「はい。学生のときはロボコンやってましたから」

えーと、ワタクシは ROBO-ONE 以外知らないんですが……それはもしかして、かなり本気だったってことですか？ もしかしてワタクシ、地雷踏みましたか？

高橋 「さーて、名前考えないといけませんねー。どんなのにしようかなー」

めちゃめちゃヤル気です。

編集長「よろしくおねがいしますねー、梓さーん。いや、小人サーン」



ものすごく本気なロボコンの方々(イメージ)

ルールを把握しよう

まず、イベントに出るからには、イベントのルールを知らなければ話になりません。どんな機体が OK で、どんなことがアウトなのか。いったいどんな能力が必要なのかがルールに書いてあるので、これを熟読しましょう。

今回のアニバーサリーは、第 4 回の「ROBO-ONE J-class」を基本にしたルールで、外装(飾り)の改造は OK だけども、機構パーツは近藤科学純正でなければダメ。幸い、編集部の KHR-1 は純正パーツ以外使われていないので、これはクリア。

また、予選は寝ている状態からスタート→ダッシュ(徒競走)のタイム勝負で行われるので、モーションを改良しなければいけません。

高橋 「そのままでも起き上がれるし、いいんじゃないですか？」

梓 「いや、もともと付いてるモーションということは、全員が持っているモーションってことつスよね。それで出場したら、一番良くてもどんぐりの背比べ。やっぱり競争ですんで、一歩先行くモーションを作らなきゃなんないっス」

高専ロボコンをガッツリやっていたという高橋嬢も、モーションは初体験。まずは電源の入っていない KHR-1 をわちょわちょ(本人談：手足を自由に動かしてポーズをつける様(さま))してイメージを固めてもらいます。

高橋嬢感想
ヒト型なんですけど、人が自然にできる姿勢ができなかったり、逆に人にはできない姿勢が楽にできたり、何だか自分の中の感覚とのギャップを感じますね。

実は、この作業が一番大事かもしれません。自分のロボットはこんな動きができるんだ、というのがわからないと、モーションも作れませんので。

モーションは「ぱらぱらマンガ」みたいなものですので、「こうして、こうして、こう動く」という手順までイメージして、それから実際のモーション作成に移ります。